

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2009-77699

(P2009-77699A)

(43) 公開日 平成21年4月16日(2009.4.16)

(51) Int.Cl.

A O 1 K 91/00 (2006.01)

F I

A O 1 K 91/00

テーマコード (参考)

C

審査請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願2007-276962 (P2007-276962)

(22) 出願日 平成19年9月26日 (2007. 9. 26)

(71) 出願人 505390750

増田 修一

千葉県白井市大山口2丁目五番2棟501
号室

(72) 発明者 増田 修一

千葉県白井市大山口2丁目五番2棟501
号室

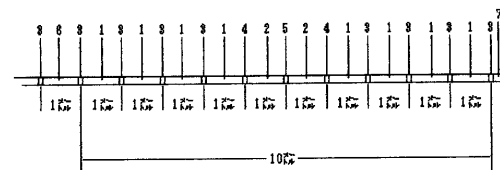
(54) 【発明の名称】 釣り糸の長さを表すための配色法

(57) 【要約】

【課題】 繰り出した長さを確認しやすい釣り糸を提供する

【解決手段】 1メートル毎に目印を付けた糸の10メートル分を1ユニットとし、各ユニットのそれぞれの両端から連続した4個の目印間には目印以外の色を、残りの2個の目印間はユニットで使用していない色を付け、更に隣接のユニットとは配色を変えたことを特徴とする釣り糸である。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

1メートル毎に目印を付けた糸の10メートル分を1ユニットとし、各ユニットのそれぞれの両端から連続した4個の目印間には目印以外の色を、残りの2個の目印間はユニットで使用していない色を付け、更に隣接のユニットとは配色を変えたことを特徴とする釣り糸。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、繰り出した釣り糸の長さを知るための配色に関するものである。

10

【背景技術】

【0002】

現在の魚釣りでは、降ろした仕掛けの位置を正確に知る必要があるが、適切な手段は、伸びの小さい釣り糸に付けた色の違い以外に無い。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

そのため、道糸に使用する釣り糸は、10メートル毎に別の色を付け、それぞれの5メートルと1メートル毎の10cmから20cmの部分は更に別の色にして、繰り出した道糸の長さを1メートル単位で視認できるようにしてあった。しかし、この色の付け方では、5メートルの部分の視認性が悪く、見逃し易かった。本発明は、5メートル部分の視認性を、色の付け方で高めることによって、問題を解決するためのものである。

20

【課題を解決するための手段】

【0004】

1メートル毎に目印を付けた糸の10メートル分を1ユニットとし、各ユニットのそれぞれの両端から連続した4個の目印間には目印以外の色を、残りの2個の目印間はユニットで使用していない色を付け、更に隣接のユニットとは配色を変える。以上を特徴とする釣り糸である。

【発明の効果】

【0005】

5メートルの視認性が向上するため、繰り出した釣り糸の長さを確認しやすくなる。

30

【発明を実施するための最良の形態】

【0006】

以下、本発明の実施の形態について説明する。

1メートル毎に目印を付けた糸の10メートル分を1ユニットとし、各ユニットのそれぞれの両端から連続した4個の目印間には目印以外の色を、残りの2個の目印間はユニットで使用していない色を付け、更に隣接のユニットとは配色を変える。

本発明は以上のような構成なので、使用方法は、従来の道糸と全く変わらない。

【図面の簡単な説明】

【0007】

40

【図1】 本発明の模式図

【符号の説明】

【0007】

- 1 目印間の基本の色
- 2 1とは異なる色（10メートル中の中心部2メートル分）
- 3 1、2と異なる色（1メートル単位の目印）
- 4 1、2、3と異なる色（2の部分の始まりを示す目印）
- 5 1、2、3、4と異なる色。但し3、4とは同色でもよい（1の中心点）
- 6 1～5とは異なる色（隣接する10メートル単位の色）
- 7 1～6とは異なる色（隣接する10メートル単位の色）

50

【図 1】

